

令和2年 1月 30日

磐田市議会議長 寺田幹根 様

会派名 志政会
代表者 草地博昭



会派視察研修等報告書

会派視察研修等の結果について、磐田市議会政務活動費の交付に関する規則第5条の規定により、下記のとおり報告します。

記

期 間	令和2年 1月 20日(月)～ 2年 1月 22日(水)
視察先 研修会 日 程	(1) 1月 20日 (月) 時間14:00 ～ 15:30 (2) 1月 21日 (火) 時間 9:30 ～ 10:30 (3) " 時間10:40 ～ 11:40 (4) " 時間13:30 ～ 14:30 (5) 1月 22日 (水) 時間10:00 ～ 11:30
参 加 議 員	寺 田 幹 根 ・ 増 田 暢 之 ・ 岡 實 高 田 正 人 ・ 網 村 和 弘 ・ 芦 川 和 美 草 地 博 昭 ・ 永 田 隆 幸 ・ 小 柳 貴 臣 鳥 居 節 夫 ・ 小 池 和 広 ・ 秋 山 勝 則

会派視察研修等報告書

令和2年1月31日

令和2年1月20日（月曜）14:00～16:00

報告者 鳥居節夫

『岩手県盛岡市』の概要

人口 291,859 人 面積 886.47 km² 県庁所在地。岩手県のほぼ中央、北上盆地の北部に位置する。江戸時代は、盛岡藩の城下町で、岩手山などの山並みに囲まれ、市街地には北上川をはじめ幾筋もの川が流れ、古い街並みが残る。北東北の玄関口にあたり、東北・秋田新幹線東北縦貫道や主要国道などが通る交通の要衝。産業構成は第3次産業の比率が高く、わんこそばや盛岡冷麺など独自の食文化を持つ。

【視察目的】

磐田市では、昭和40年代から50年代に多くの公共施設の整備や拡充を図ってきました。今後の課題として建物の維持管理が挙げられる。人口減少の中で少子高齢化や生産年齢人口の減少が予測され、税収減少を踏まえ公共施設の維持管理の見直しが必要であると考えます。

視察先の盛岡市では平成4年に都南村・平成18年に玉山村と合併し、平成20年には中核市へ移行している。市の規模は違いますが盛岡市でも少子高齢化の中で本市と同じ様な課題に向けて公共施設の長寿命化や保有最適化に平成21度から積極的にアセットマネジメントに向けて実施計画の策定に取り組んでいる点を視察する。

【調査内容】

盛岡市の公共施設アセットマネジメントの推進について

①基本方針の設定の背景

築30年を超える公共施設が全体の4割を占め、全てを保有した場合は向こう40年間で約4345億円、年平均100億円の費用がかかることが予測される。

②少子高齢・人口減少社会での財源確保

土地・建物の売却・貸付や指定管理者制度の導入による民間活力の導入。補助制度、法廷給付サービスの利用や民間譲渡などを行っている。

③PPP/PFIの促進

公共施設等の整備等に民間の資金、経済能力、技術的能力を活用していくことが重要と考え、もりおかPPPプラットフォーム、サウンディング型市場調査、民間提案制度の構築をしている。

④長寿命化計画・施設保有量の最適化

平成20年度に岩手県立大学内に盛岡市まちづくり研究所を設置し将来推計・社会動態等を調査研究した。平成25年公共施設保有の最適化と長寿命化のための基本方針を打ち出した。平成27年公共施設保有最適化・長寿命化中期計画を策定した。

会派視察研修等報告書

令和2年1月30日

令和2年1月21日(火曜)9:30~10:30

報告者 永田 隆幸

【調査内容】

《 第2次盛岡ブランド推進計画について 》

盛岡市は、平成18年に盛岡ブランド推進計画を策定し、暮らしの中から生まれた盛岡の価値や魅力を「盛岡ブランド」として市の内外へ発信してきました。平成27年3月には第2次盛岡ブランド推進計画(期間:平成27年度~31年度)を策定し、更なる魅力の発信に努めている。

1. 計画策定の目的

都市間競争が激化する中で街の活力を維持していくためには、市の魅力を磨き上げ、効果的に市内外に発信することで、「選ばれるまち」となっていく必要があります。そのために、本計画は盛岡の価値や魅力に共感する「盛岡を愛する人」を市内外に増やすことを目的としている。

2. 盛岡の価値や魅力

盛岡には、脈々と続いている人々の暮らしという、いわば「物語」の中から生まれた様々な価値や魅力がある。こうした価値や魅力と、そこから生まれる安心や信頼といったイメージを「盛岡ブランド」と位置付けている。

3. 推進戦略

戦略1 市民・事業者の意識の共有

- ・より多くの市民や事業者が盛岡ブランドをよく理解してもらうための取り組みを充実させる。
- ・その取り組みに市民や事業者が積極的に参画することを促し、意識共有を図っている。

戦略2

- ・シティプロモーションを見据え、県都としての役割を意識しながら、首都圏等に盛岡ブランドを積極的に発信する。
- ・盛岡広報戦略指針に基づき、ソーシャルメディア等の新たな広報・情報媒体を積極的に活用する。
- ・盛岡に関わりがある人を通じた盛岡の魅力の発信に取り組む。

4. 目指す成果

- (1) 市外における盛岡の魅力度の向上
- (2) 盛岡というまちに愛着を持つ市民の増加
- (3) 来訪者(観光客、修学旅行生等)の増加

【考察】

人口減少、少子高齢化、地方分権の進展などにより地域間競争が激化する中、本市が「訪れてみたい」、「暮らしてみたい」、「住み続けたい」など、市内外の人々から「選ばれるまち」になるためには、

- (1) 「磐田の有形・無形の地域資産」が持つ魅力を掘り出し、育み、磨き上げ、市外に発信すること。

報告者 秋山勝則

【日程】令和2年1月22日(水) 10:00~11:30

【調査内容】八戸ポータルミュージアムについて

『青森県八戸市』の概要

人口約23万人、総面積約305K²。

青森県の南東部に位置し、夏は冷涼、冬は晴天が多く乾燥しやすい。東北にありながら降雪量が少なく、日照時間が長いことも特徴である。

臨海部に大規模な工業港・漁港・商業港が整備され、全国屈指の水産都市であり北東北随一の工業都市である。将来都市像を「ひと・産業・文化が輝く北の創造都市」として人と産業、文化の調和の取れたまちづくりを進めている。

都市データパック 住み良さランキング総合636位 財政健全度総合508位

●八戸ポータルミュージアム「はっち」の概要

はっちは中心市街地＝八戸の顔として、新たな交流の拠点と創造の拠点を目的に整備
敷地面積：3,387平方メートル 建築面積：1,664平方メートル
免震構造の鉄筋コンクリート造りの5階建て建築である

【運営組織】施設運営組織23名 企画運営グループ8名
総務経営グループ13名
施設運営市民スタッフ
ボランティアガイド37名(常時2名)

【運営】会所場づくり(誰でも立ち寄れる空間)

貸し館事業(シアター・和室・ギャラリー等)

自主事業 ①中心市街地の賑わい創出事業

②文化芸術の振興

③ものづくりの振興

④観光振興

●八戸まちなか広場「マチニワ」の概要

マチニワは中心市街地活性化における回遊の拠点として、地区全体の魅力向上・賑わいの創出・回遊性の向上・周囲への効果波及を促すことを目的に整備。

敷地面積：1,090平方メートル

延床面積：1,249平方メートル

鉄筋造り、地上2階・地下1階の建築である。はっちの向かいに位置し連携により中心市街地活性化の効果を最大限に引き出すことを期待。

用地費：142,918千円

設計調査費：94,338千円

工事費：1,672,822千円

コンセプトは、外観を抽象性を抑えたシンプルなデザインで、屋根や外壁にはガラスが多く使われ自然や季節を感じられる。また内観も県産材を活用し、地元産業にも寄与している。